

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K17027

研究課題名(和文) 為替制度の違いによる貿易パターンの相違

研究課題名(英文) Difference in Trade Pattern due to the Exchange Rate System

研究代表者

濱野 正樹 (Hamano, Masashige)

早稲田大学・政治経済学術院・准教授

研究者番号：20711089

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：EU各国のデータによると、過去20年にわたり変動相場制かつ、生産性において企業間の異質性が小さい国においては、長期にわたり経常収支不均衡が持続することはない。本研究では企業間の異質性と賃金硬直性を含んだ二国の動学モデルを構築した。理論モデルにおいて、経常収支の動学は金融政策の在り方、企業間の異質性の度合いにも左右されることを示した。すなわち、生産性が同質な企業ばかりの国においては、輸出市場において参入退出が盛んなため、経常収支不均衡が持続する可能性は低い。また適切な金融政策により、経常収支不均衡を是正し、同質な企業ばかりの国においては、経常収支不均衡が持続しにくくなることを示した。

研究成果の概要(英文)：Using Compnet data on firm size distribution of 15 UE countries over the past two decades, we show that the persistence of the current account is reduced when the exchange rate is more volatile and the dispersion of firm size distribution is smaller. We build an open economy dynamic model with firm heterogeneity and wage rigidity to rationalize this empirical finding. We find that the current account dynamics is sensitive to the dispersion of firm size as well as the conduct of monetary policy. The economy with lower firm dispersion tend to show a less persistent current account as the trade dynamics is driven by a larger turnover of firms in the exporting market. Moreover, monetary policy can dampen current account imbalances through the stabilization of output gap following a simple Taylor rule. We show that the current account persistence is further reduced by such monetary policy in an economy where the firm size distribution is less dispersed.

研究分野：国際貿易論、国際マクロ経済学

キーワード：為替レート 企業の異質性 経常収支 金融政策 財の種類

1. 研究開始当初の背景

近年、特に国際貿易における理論、実証の各分野において、財の種類またその品質の変化が、各国の貿易を論ずる上で極めて重要な役割を果たすことが明らかになってきた。他方で貿易を論ずる上で、重要な役割を果たすと考えられるものに、為替レートの存在があげられる。実質的な経済変数と名目的な経済変数の諸関係は明らかでなく、特に輸出、輸入における財の種類、品質の変化が貿易に与える影響、またはそれらの経常収支の動学に与える影響は、固定相場制度や、変動相場制度といった、為替システムの在り方とはなんだろうか？このような問題関心から本研究はスタートした。

2. 研究の目的

本研究は Hamano and Picard (2017)、そして Hamano and Zanetti (2017) を拡張し、名目的硬直性を含む二国の動学的一般均衡モデルを構築することで、財の種類やその品質の変化と為替システムの相互作用、または経常収支の動学を探究することとした。貿易収支、経常収支の不均衡は昨今再び、政策上の重要な変数として浮上してきた感がある。本研究は、現代的な理論的枠組みのなかで、この古くて新しい問題を捉えなおす試みであるともいえる。

3. 研究の方法

財の種類の数や、品質の変化といった貿易パターンと為替制度の関係を明らかにする、といった本研究の目的を達成するため、第一に、代表者が過去に行った研究に則り、価格の硬直性を備え、財の数の種類と品質が同時に変化する二国の動学的一般均衡モデルを構築した。フルバージョンの理論モデルを構築するが、あえて、一部の仮定を単純化して理論モデルを解き、モデルから得られる直観を分析的に吟味した。第三に、理論モデルのシミュレーションを行い、様々な外生的政策ショックにおける、インパルス応答、または二次モーメントを現実データと比較した。最後に、現実データから観測される為替制度の違いによる経常収支の動学が、理論モデルと整合的か否か、パネルデータを用いて検証した。

4. 研究成果

EU 各国のデータ (Compnet) によると、過去 20 年にわたり、変動相場制かつ、生産性において企業間の異質性が小さい国においては、長期にわたり経常収支不

均衡が持続することはないことが明らかになった (図 1 参照)。

理論モデルにおいては、経常収支の動学は金融政策の在り方、さらには企業間の異質性の度合いにも左右されることを示した。すなわち、1) 生産性が同質な企業ばかりの国においては、輸出市場において参入退出が盛んなため、経常収支不均衡が持続する可能性は低い。2) さらには、単純なテイラールールに基づいた金融政策におけるアウトプットギャップの縮小は、経常収支不均衡を是正し、加えて同質な企業ばかりの国においては、適切な金融政策により経常収支不均衡が持続しにくくなることを示した (図 2、図 3 参照)。

今後の課題として、金融政策、為替制度の在り方を分析的に導き、変動相場制、固定相場制におけるそれぞれの優位性について、福祉の比較を行う予定である。

(付録)

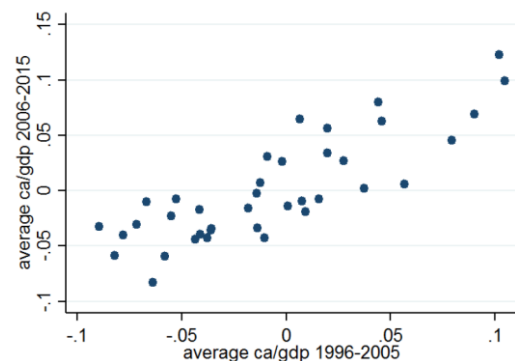


図 1 : EU 各国における経常収支不均衡の持続性について (Hamano and Pappada, 2017 mimeo より)

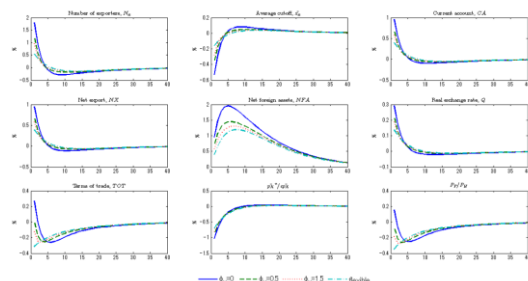


図 2 : 経常収支の動学と金融政策について (Hamano and Pappada, 2017 mimeo より)

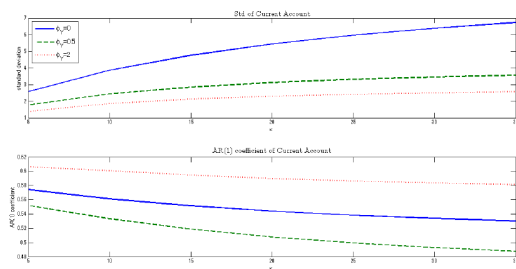


図3：経常収支不均衡と、企業間の異質性、金融政策の役割について (Hamano and Pappada, 2017 mimeo より)

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① Masashige Hamano and Francesco Zanetti, “Endogenous Product Turnover and Macroeconomic Dynamic”, 2017, Review of Economic Dynamics, Elsevier for the Society for Economic Dynamics, vol. 26, pages 263-279, October, 査読有
- ② Masashige Hamano and Pierre M. Picard, “Extensive and intensive margins and the choice of exchange rate regimes”, 2017, Canadian Journal of Economics, Canadian Economics Association, vol. 50(3), pages 804-837, August, 査読有
- ③ Eiji Okano and Masashige Hamano, “Inflation Stabilization and Default Risk in a Currency Union”, 2014, UTokyo Price Project Working Paper Series 028, University of Tokyo, Graduate School of Economics, forthcoming, Macroeconomic Dynamics, 査読有

[学会発表] (計 10 件)

- ① Masashige Hamano, Adapting to within-country export barriers: Evidence from the Japan 2011 Tsunami, The 2d Sophia Research Workshop in Economics, 2018年2月27日～2018年2月27日, 上智大学
- ② PAPPADA Francesco, Monetary policy, external imbalances and firm dynamics, Innovation, firm size, productivity and imbalances in the age of de-globalization, 13<sup>th</sup> CompNet Annual Conference, 2017年6月29日～6月30

日,Brussel, Belgium

- ③ Masashige Hamano, Monetary policy, external imbalances and firm dynamics, The 66TH of the Annual Congress of the French Economic Association 2017年6月19日～6月21日, Nice, France
- ④ PAPPADA Francesco, Monetary policy, external imbalances and firm dynamics, Workshop on Heterogeneity in International Economics, 2017年2017年6月16日, Bank of France, Paris, France
- ⑤ Masashige Hamano, Variety and Quality in Trade Dynamics, Asian Meetings of the Econometric Society, 2017年6月3日～6月5日, Hong Kong, China
- ⑥ Masashige Hamano, Adapting to within-country export barriers: Evidence from the Japan 2011 Tsunami, The Royal Economic Society Conference, 2017年4月10日～4月12日, Bristol, England
- ⑦ Masashige Hamano, International risk sharing with product variety and quality, The 1st Sophia Research Workshop in Economics, 2017年03月29日～2017年03月29日, 上智大学
- ⑧ Masashige Hamano, Adapting to within-country export barriers: Evidence from the Japan 2011 Tsunami, The Japan Society of International Economics, The 75<sup>th</sup> Annual Meeting, 2016年10月29日～2016年10月30日, 中京大学 (名古屋市・昭和区八事)
- ⑨ Masashige Hamano, Endogenous Product Turnover and Macroeconomic Dynamic Econometric Society Asian Meeting, 2016年08月11日～2016年08月13日, 同志社大学 (京都府・京都市上京区)
- ⑩ Masashige Hamano, On quality and variety bias in aggregate prices, The 30th Annual Congress of the European Economic Association, 2015年08月24日～2015年08月27日, Germany, Mannheim

[その他]

ホームページ等

<https://masashige-hamano.webnode.jp/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

濱野 正樹 (HAMANO, Masashige)  
早稲田大学・政治経済学術院・准教授  
研究者番号： 20711089

### (2) 研究協力者

PAPPADA Francesco  
Banque de France・International  
Macroeconomics Division (SEMSI)